

【ドキュメント修正】

E1/E20 エミュレータユーザズマニュアル別冊

(RH850/E1L、RH850/E1M-S グループ接続時の注意事項) Rev5.00

概要

E1/E20 エミュレータユーザズマニュアル別冊 (RH850/E1L、RH850/E1M-S グループ接続時の注意事項) Rev5.00 の訂正および追加を連絡します。

1. 対象ドキュメント

タイトル : E1/E20 エミュレータユーザズマニュアル別冊 (RH850/E1L、RH850/E1M-S グループ接続時の注意事項)

資料番号 : R20UT3054JJ0500

リビジョン番号 : Rev5.00

2. 改訂箇所

- (1) 「4.2 デバッグ時の注意」の「No.8 トレース機能 (トレース機能を持つデバイスを使用する場合)」について、訂正および追加を行います。

正.	誤	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ PUSHSP 命令、PREPARE 命令実行によるライトデータがトレース取得されない場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PUSHSP 命令実行によりプッシュするライトデータがトレース取得されません。 	訂正
<ul style="list-style-type: none"> ・ トレースの優先度をノンリアルタイムトレースに設定した場合は、トレースフルストップ機能とトレースディレイストップ機能は使用できません。トレースフルストップ機能またはトレースディレイストップ機能を使用する場合は、トレースの優先度をリアルタイムに設定してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トレースの優先度をノンリアルタイムに設定した場合は、トレースフルストップ機能は使用できません。トレースフルストップ機能を使用する場合は、トレースの優先度をリアルタイムに設定してください。 	訂正
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定アドレスに対するデータアクセスのみをトレースするデータクォリファイトレース(ポイントトレース)の設定において、リード/ライトアクセス条件を設定しても、データ条件は無視してトレースされません。 		追加

(2) 「4.2 デバッグ時の注意」に以下内容を追加します。

(1/2)

No.		
1	項目	ハードウェアブレーク [リード/ライトアクセス検出不可]
	内容	以下の命令によるリード/ライトアクセス条件が成立してもブレークは発生しません。PCUは対象外です。 <ul style="list-style-type: none"> ・CAXI、SET1、CLR1、NOT1、TST1 命令 以下の命令ではリードアクセスのアドレス条件のみはブレークします。 <ul style="list-style-type: none"> ・PREPARE、DISPOASE、PUSHSP、POPSP、SWITCH、CALLT、SYSCALL 命令
2	項目	ハードウェアブレーク [EIINT テーブル]
	内容	EIINT のテーブルアドレスをブレーク条件に設定しないでください。 ブレークすると EIRET で割込み処理から元のプログラムに戻れない場合があります。
3	項目	内蔵フラッシュメモリ書き換え時の制限事項 (クロックモニタ)
	内容	デバッガは、フラッシュメモリ書き換え時(注)に PLL の設定を変更します。 このため、フラッシュメモリ書き換え時の周波数は、ご使用の周波数より高速になる可能性があります。クロックモニタ(CLMA)で設定した周波数の上限を超える場合は、フラッシュメモリ書き換えを抑制します。 注：フラッシュメモリ書き換えは、下記の操作時に発生します。 <ul style="list-style-type: none"> ・内蔵フラッシュメモリへのダウンロード ・メモリパネル操作による内蔵フラッシュメモリの変更 ・ソフトウェアブレークの設定・解除 ・ソフトウェアブレーク成立後の再実行 (ステップ含む)
4	項目	クロック設定中にブレークした場合の制限事項
	内容	クロック設定中にブレークした場合、デバッガからフラッシュメモリの書き換えができません。クロック設定中にブレークした状態で下記の操作を実施する場合は、「フラッシュ書き込み時にクロックを変更しない」に設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・再ダウンロードなどフラッシュメモリの書き換えを伴う操作 ・ソフトウェアブレークの設定および解除 また、クロック設定処理にソフトウェアブレークを設定しないでください。
5	項目	ブレーク条件成立の競合
	内容	強制ブレークやイベントブレーク等でブレーク状態に遷移する直前に別のリードアクセスイベントを検出した場合、再実行時にリードアクセスイベントによるブレーク要求が受け付けられ、再実行してすぐに再ブレークする可能性があります。
6	項目	イベント機能 (イベント検出順)
	内容	以下の場合には命令順とイベント検出順が前後する可能性があるため、シーケンシャルイベント、任意区間の時間測定/パフォーマンス測定ができない場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・連続する命令に設定したイベント(2 命令を同時に実行する場合があるため) ・接近したリード命令とライト命令が検出対象となるアクセスイベント (ライトアクセスとリードアクセスのイベント検出タイミングが異なるため、ライト→リードの順に命令を実行してもリード→ライトの順で検出される場合がある)

No.		
7	項目	イベント機能 (ビット操作命令)
	内容	イベントとしてリード/ライトアクセスを条件に設定している場合、ビット操作命令による Read-Modify-Write のライトサイクルが条件成立しても、イベント検出されません。この条件でブレークやトレース取得、パフォーマンス測定のトリガとしては使用できません。
8	項目	イベント機能 (64bit アクセス)
	内容	64bit サイズを条件としたアクセスイベントを設定しないでください。 64bit アクセスサイズ以外のアクセスを検出したり、別のイベントが正常に動作しなくなる可能性があります。
9	項目	ハードウェアブレーク [SYSCALL 命令]
	内容	PCU では、SYSCALL 命令によるリードアクセスでハードウェアブレークが発生しません。
10	項目	メモリプロテクション機能
	内容	PCU で MPM.SVP=1 に設定する場合、0xFE600000~0xFE7FFFFFFF 領域での SV モードによる命令実行を禁止に設定しないでください。 デバッグができなくなります。

3. ドキュメント改善計画

本内容については、次回改版時に反映予定です。

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2016.04.16	-	新規発行

ルネサスエレクトロニクス株式会社
 〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

■総合お問い合わせ先

<http://www.renesas.com/ja-jp/support/contact.html>

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。